

人権だより

No.307(2023.11)

自分らしく生きる

研究情報図書部長 石丸 聖也

私事で恐縮だが、先日、高校の同窓会が松山であった。6年ごとに開催されており、コロナ禍を挟んで、久しぶりに高校時代の仲間と再会した。最初に、学舎に集まったが、すっかり母校の様子は変わっていた。もちろん、母校ばかりでなく私も含めて、みんな「オヤジ」に変わり果てていたが、30年近くも経てば、無理もないこと。「ゆく川の流



れは絶えずして、しかももとの水にあらず。」と言われるが、やはり昔の匂いのするものに出会うと、若かりしあの頃の記憶が、ふとよみがえり、とても懐かしかった。ただ、確かに見覚えがあり、ともに過ごした記憶もあるのに、声をかけてくれた相手の名前だけが思い出せず、それをごまかすのに大変苦労した。

それから場所を変えて、改めて同窓会が開催された。幹事司会のもと、乾杯の音頭の前に黙禱が行われた。残念ながらその日までに亡くなった、3名の仲間の名前が読み上げられた。そのうちの一人の名前を聞いて、頭が真っ白になってしまった。高2、高3と同じクラスで、いっしょにいることの多かったI君の名前だったからだ。卒業して偶然一度だけ本屋で会って以来、ずっと会えなかった友人。いつか同窓会で会えるはずという思いもあって、毎回出席していたのに、大切な仲間のことも知らないまま、必ずまた会えるにちがいないという根拠のない思い込みを信じて、のほほんとして過ごしていた自分にもショックだった。自分ももうそういう年代になったんだと考えさせられもした。

私の知っているI君は、とても穏やかで優しく、頭が良かった。周りからは天才と一言で片付けられがちだったが、近くで見ている私には、間違いなく努力の人でもあった。一方、私という部活もやめて何の取り柄もない、ただの落ちこぼれだった。そんな二人が、なぜか仲良くなった。今、思い起こすと、接点といえば出席番号が近かったぐらい。とにかく、しんどいことの多かった私は、I君といっしょにいと、楽だった。落ち着くことができた。私だけの思い込みかもしれないが、それくらい、I君は私にとってかけがえのない存在であり、いろんな意味で恩人だった。会のあと、どうしても残念でならない私は、お世話になった幹事の一人に連絡して、詳しい事情を思い切って教えてもらった。彼によると、I君は、だいぶ前に亡くなっていた。本屋で会ったあの時に、もっと何か、もっとI君に自分から積極的に働きかけて、次につながるような行動をしておけばよかったと、今更ながら後悔した。その頃の私は、I君に図々しいことはしたくないぐらいの気持ちでいたように思う。いや、自分に自信のない私は、図々しいと思われたくないだけだったのかもしれない。それが、今生の別れになろうとは。

学生時代の今を大事にして欲しい。今しかできないことも多い。何事も全力で努力して、仲間とともに思いっきり楽しんでもらいたい。「光陰矢のごとし。」でも、学生時代だけが人生ではない。すべてではないのだ。うまく行かないこともある。そんな時は、あまりこだわりすぎず、素直な心を大切にしながら時の流れに身を任せてみよう。一休さんも言っている。「気にしない、気にしない。一休み、一休み」と。素直ささえ忘れなければ、必ず道は開ける。私も、人とのつながりをもっと大切にしていきたい。

【保護者の声】 文章を読んだPTA 人権委員の方の感想です。

私自身、高校時代そしてその後も、暗いトンネルの中にいるような時間が長く続いていたことを思い出しました。今、同じ思いをしている若い人達には、目の前に世界が開ける日が必ず来ると伝えたいです。そして、筆者のように、そんなあなたを温かく見守っている友人や大人がきっと側にいます。思い切って声をかけてみてください。(5年生保護者)

【人権委員の声】

今、一緒に過ごしている友達に将来会えなくなるなど考えたことがなかったので、今を大切に生きていきたいと思いました。私は全力で努力して取り組むことが少ないので、小さなことでも全力で取り組めるような人になりたいです。(1年生 人権委員)

この文章を読んで、「うまくいかないこともある。そんな時はあまりこだわり過ぎず、素直な心を大切にしながら時の流れに身を任せよう。」の部分に共感しました。失敗してもごまかさず、素直な心を大切にして生活していこうと思いました。(2年生 人権委員)

今の生活を大切に過ごしていきたいと思いました。題名にもあるように、自分らしく生きることが一番に自分に自信をもって生きていけたらなと思いました。楽しみながら全力で努力し続けていこうと思います。(3年生 人権委員)

当たり前のように過ごしている学生時代も、いずれは変化してしまうのだと改めて感じました。今しかできないことを全力で楽しみ、何事にも挑戦していきたいです。(4年生 人権委員)

当たり前が明日も必ずあるということはないのだと思いました。私も祖母が亡くなったとき、話せる時に話しておけばよかったと後悔しました。また機会はあると後回しにするのではなく、思い立った時にやっておこうと思いました。学生時代は今しか経験することができないことも多いので、一瞬一瞬を大切に過ごそうと思いました。(5年生 人権委員)

学校は毎日、友達に会える場所ですが、その環境にいることは当たり前なことではないのだと改めて感じた。卒業まで残り数か月ですが、毎日大切に過ごしていきたい。自分らしく生きるために、伝えないまま終わるより素直さを忘れず、自分の思いを伝えられるようにしたい。(6年生 人権委員)

人権教育相談部より

11月3日(金)に行われた文化祭には、人権委員会が行う募金活動にご協力いただきありがとうございました。総額12,960円が集まり、全額日本赤十字社「ウクライナ人道危機救援金」に寄付いたしました。お渡しした種は来年の5月頃植えて頂けたらと思います。